

# 中野区教育委員会会議録

令和4年第32回定例会

令和4年10月28日

中野区教育委員会

令和4年第32回中野区教育委員会定例会

○日時

令和4年10月28日（金曜日）

開会 午前10時00分

閉会 午前11時27分

○場所

中野区立令和小学校

○出席委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 岡本 淳之

教育委員会委員 村杉 寛子

教育委員会委員 田中 英一

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

○出席職員

教育委員会事務局次長 濱口 求

参事（子ども家庭支援担当） 小田 史子

子ども・教育政策課長、学校再編・地域連携担当課長

渡邊 健治

指導室長 齊藤 光司

学校教育課長 松原 弘宜

子ども教育施設課長 藤永 益次

令和小学校校長 松井 敏

第五中学校校長 鈴木 達彦

○書記

教育委員会係長 香月 俊介

教育委員会係 伊藤 芽依

○会議録署名委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 村杉 寛子

○傍聴者数

26人

○議事日程

1 協議事項

(1) 道德教育・道德授業について

○議事経過

午前 10 時 00 分開会

入野教育長

それでは、定足数に達しましたので、教育委員会第 32 回定例会を開会いたします。

ここで、傍聴の許可についてお諮りいたします。

教育委員会の会議における傍聴人の数につきましては、中野区教育委員会傍聴規則第 3 条により、20 人以内と定められております。本日は傍聴を希望される方が 20 人を超えてお見えになる場合がございますので、同規則第 3 条ただし書きの規定により、20 人を超えて傍聴することを認めたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、20 人を超えて会議を傍聴することを認めることに決定いたしました。

ここで、お諮りいたします。

本日は株式会社ジェイコム東京から、取材のため、教育委員会の会議を撮影したい旨の申し出がございました。

会議を撮影する場合には、教育委員会の承認を受ける必要がございます。

これを承認したいと思いますと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、会議の撮影を承認することに決定いたしました。

なお、撮影に当たりましては、会議に差し支えないよう行っていただきますようお願いいたします。また、傍聴者の方を撮影される場合には、個別に了承を得てから行っていただきますようお願いいたします。

次に、令和 4 年 10 月 17 日付で、教育委員会事務局の幹部職員の人事異動がございましたので、事務局からご報告願います。

教育委員会事務局次長

令和 4 年 10 月 17 日付の教育委員会事務局幹部の人事異動についてご報告いたします。

初めに、私でございますが、教育委員会事務局次長の濱口求でございます。よろしく願います。

次に、子ども・教育政策課長、学校再編・地域連携担当課長を兼務いたします渡邊健治でございます。

子ども・教育政策課長

渡邊でございます。よろしくお願ひいたします。

教育委員会事務局次長

また、本日は出席しておりませんが、保育園・幼稚園課長に、半田浩之が着任してございます。

幹部の人事異動につきましては以上でございます。よろしくお願ひいたします。

入野教育長

それでは、議事に入ります。

本日の会議録署名委員は、村杉委員にお願ひいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりでございます。

さて、本日開催いたします地域での教育委員会は、中野区において開かれた教育行政を一層推進するために、区役所以外の場所に会場を移して開催をしているものでございまして、今回で40回目となります。

会議の進行につきましては、通常のエ育委員会と同じように進めてまいりますが、本日の協議事項の「道徳教育・道徳授業について」につきましては、テーマに関連して、小・中学校の校長先生にお話を伺う予定でございます。

また協議事項の終了後、会議を一旦休憩いたしまして、協議テーマ、その他教育に関して、傍聴の方のご意見をいただく時間を設けたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

<協議事項>

入野教育長

それでは、協議事項、「道徳教育・道徳授業について」を協議いたします。

初めに、指導室長から、区のエ組についてお話をいただき、その後、小・中学校の校長先生方からそれぞれのエ組等をご紹介いただいた後、教育委員の皆様方からご意見を伺い、協議を進めていきたいと思ひます。

初めに、事務局から説明をお願ひします。

指導室長

中野区教育委員会事務局指導室長の齊藤光司と申します。

私からは、中野区における道徳教育についてご説明申し上げます。

道徳教育は、全教育活動を通して行うものであり、道徳教育及び道徳科では、道徳性を養うことを目標としております。

画面の資料をごらんください。

学校で行う全ての教育活動が道徳教育につながるものであり、そのかなめとなるものが道徳科の授業となります。

平成27年3月に学習指導要領が改訂され、「特別の教科 道徳」となりました。教科となったため、道徳科と呼んでおります。

変わった点を幾つか記載いたしましたが、大きな変更点といたしましては、教科書を主たる教材として使用すること、道徳科の授業で、児童・生徒を評価することの2点でございます。評価と言いましても、数値での評価ではなく、成長の様子を認め、励ます評価を行います。

道徳教育の抜本充実が求められる背景といたしましては、深刻ないじめの本質的な問題に向き合うこと、決まった正解のない予測困難な時代を生きていく子どもたちであるということことです。

そのために、みずからの人生や社会における答えが定まっていない問いを受け止め、多様な他者と議論を重ねて探求し、納得解を得るための資質・能力を身につける必要がございます。こうした資質・能力を育成するためには、道徳教育は、非常に大きな役割を果たすと考えております。

道徳科の目標でございます。

括弧内は、中学校の目標となっております。この目標にございます道徳性を養うために必要な学習過程を下にお示ししました。自己を見つめること、広い視野から多面的・多角的に考えること、これらの学習を通して、道徳性を養い、将来は自立した人間として、他者とともによりよく生きる力を身につけてほしいと考えております。

これは道徳教育の全体計画の例を示したものです。

区内全小・中学校が、このような全体計画を作成し、教育委員会に提出してもらい、内容を確認しております。この計画に沿って、教育活動を全校で進めてもらっております。

ここからは、各学校での取組を幾つかご紹介させていただきます。

まず1点目でございますが、各学校では、道徳教育を中心として進めていく先生を、道徳教育推進教師と位置づけ、その先生を中心に、全教師が協働して道徳教育を展開しており

ます。

2点目は、毎年いじめをテーマとした道徳授業を全校全学年で実施しております。1人1台のタブレット端末や電子黒板などのICT機器を効果的に活用して、お互いの考えを伝え、学び合う活動を実施しております。

最後3点目でございますが、道徳授業地区公開講座の開催でございます。道徳授業地区公開講座の趣旨といたしましては、道徳科の授業公開を行うこと、意見交換を通して、学校、家庭・地域社会が一体となって道徳教育を推進すること、そして道徳科の授業を活性化するとともに、質の向上を図ることを狙いといたしております。

この後、より詳しい学校での取組につきましては、お2人の校長先生から、お話をいただく予定でございます。

次に、教育委員会としての取組をご紹介させていただきます。

まず1点目は、道徳教育推進教師の研修会を年間2回実施しております。今年度は7月と1月に予定をしております。

また初任者研修会、こちらも毎年行っておりますが、小学校・中学校の新規採用教員が、合同で道徳科の授業について研修を行い、模擬授業を通じて、互いの研究の成果を発表しております。今年度は、幼稚園にも新規採用教員がおりましたので、幼稚園の先生も参加をしております。

毎年研修を終えた後の先生方は、なかなか思い描いていた授業にはたどり着けなかったという悔しい表情も見られますが、多くの初任者の先生方には、道徳科の研究を通して、同期の仲間と切磋琢磨し合いながら、研究を重ねることができたという充実感にあふれている表情のほうが大変印象的でございます。

この2点以外にも、最初にお話ししたとおり、全ての教育活動を通じて道徳教育を行うよう、各研修会でも先生方にお伝えしているところでございます。

最後になりますが、来年1月27日に上鷲宮小学校で研究発表会を予定しております。テーマは「自己を見つめ、よりよい生き方をしようとする児童の育成」といたしまして、2年間の取組を授業公開とともに伝えてもらう予定であります。中野区内の先生方だけでなく、都内や他県からも大勢の先生方をご参加されると思います。今後も道徳教育の充実に向けた取組を継続し、先生方のよりよい授業づくりを支援してまいります。

私からは以上でございます。ありがとうございました。

入野教育長

続きまして、本日の会場である令和小学校の松井校長先生から、お話をお伺いしたいと思います。松井校長先生、よろしく願いいたします。

松井校長

皆さん、こんにちは。令和小学校の校長の松井です。よろしく願いいたします。

「道徳教育・道徳授業について」ということで、お題をいただいていますので、これについて、学校の取組と自分自身の考え、ということも含めてお話をさせていただきます。

まず、私が誰だかわからないとちょっとと思いますので、プロフィールに代えてということですが、中野生まれの中野育ちです。中野区の学校、20年目になりました。統合新校は4校目です。令和小学校は7カ月目。専門は一応道徳で、10年ぐらい前はこんなふうに授業もしていました。ちょっと若いと思います。

なかなかない機会なので、一生懸命話そうと思っています。でも、相当緊張しています。時間は15分でいただいていますので、時間には終わりたいと思っています。プレゼンがちょっとメタボリックなので、なかなか全部いかないと思いますが、駆け足になると思いますが、よろしく願いします。

道徳教育と道徳授業、二つ出てきていたと思うのですが、この関係を、教員にも保護者の方にもわかってもらいたいと思っています。道徳教育というのは、全教育活動を通して行う道徳教育、そのかなめの時間が道徳の授業ということなのですね。

ちょっと画面を見てください。二つベクトルを出します。まず、道徳の授業でやったことが、普段の中で、行動としてあらわれてほしいという赤のベクトル、普段やっていることで、それを道徳の授業で少し振り返ってほしいという青のベクトル、どちらもあるのですが、どっちが強いほうがいいのかと思いますか。心の中で決めてください。手を挙げてくださいますか。とか言いませんので。

これは、両方ありますが、道徳教育は、朝の「おはよう」から帰りの「さようなら」まで、学校の中には様々あります。道徳授業は、週1回自分自身を見つめる時間ですから、当然普段のことを少し思い起こしてほしいという青のベクトルが重要だと私は思います。赤が強くなると、即効性を求めたり、行動化を強く求めたりしますので、非常に危険です。そんなふうに思っています。なので、普段がとても大事ということなんです。

先輩の言葉を借りると、道徳授業のことですが、じっくりじわじわと漢方薬みたいに効いてくるよ。それから、水前寺清子さんは皆さんわかると思いますが、3歩進んで2歩下がるというやつですね。時には、1歩進んで2歩下がる時もあると思います。ちょっと



深めて、脱即効性とか、それから心の地下水を汲み上げるといふ先輩もいました。種をまき続けるんだという人もいます。まかない種は生えませんがとっています。

体験的に子どもの好きなこと、嫌なことといふのを、卒業生から聞いたりもしていますけれど、今日は時間が限られているので、先にいきます。

これは東日本大震災の後によく流れたCMですけれども、「思い」と「思いやり」ですね。道徳授業は、見えない「思い」を言葉にして伝え、ともに考え、深め合い、自分を見つめる時間です。「思いやり」の行動をさせる時間ではないといふところも、さっきのベクトルと同じ話ですね。このようなことが大事だと思っています。

「聞く」と「語る」。私たちの基本姿勢は「待つ、聴く、受け止める」といふことで、子どもたちの道徳の授業では、自分のことを話す自己開示とか、それが受け入れられる自己受容といふことを大事にしましょうと、うちの教職員が私に教えてくれました。

「袴(かみしも)を脱いで共に考える」といふのは、お侍さんのかみしをも先生も外して、子どもと一緒に考えるような時間だよと捉えています。

道徳授業で子どもが獲得するものですが、みんながその日のテーマについて、①どんなことを考えているのかがわかる。これは、聞いていけばわかりますから、毎時間あります。②自分が、そのことについてどう思っていたかがわかる。これは、しばしばあります。③今まで知らなかったすばらしいことに鮮やかに気づくといふのは、めったにありません。③を狙って授業をしていると、先生は疲れます。先生が疲れると子どもも疲れて、授業がおもしろくなくなっていくます。そんなことを教わってきました。

過去・現在・未来の自分を見つめるといふことですが、これは子どもに任されているものだと思います。先輩の先生から、道徳授業の特質は、ねらいに照らして、子ども一人ひとりが自分の生き方の中の課題、過去の体験、現在の思い、未来への希望について、深く感じたり考えたりする時間で、一人ひとり違ふと教わりました。ですから、これは過去にとどまっている人もいます。つまり友達関係が悪くて、「あのときこうしちゃったな」と思っている子もいます。今良好だから、とてもそれを大事にしたいと、今とか未来を考える子もいます。でも、それはそれぞれ任されることであるので、それを受け止めていくことが大事と考えています。

令和小学校の先生たちと、まず3カ条といふことで、よりよい教材・お話の提示、分かりやすい発問、そして「待つ、聴く、受け止める」と、職員室に張りました、出勤札の上に。三つを解説して、お話の提示をよく読んで、間を大切にしようといふことで言ってい

ます。それから得意を生かしてということで、教科書をそのまま読む場合もあるけれど、そうではなくて、ICT画面に落とし込む人もいるし、紙芝居みたいにやる人もいるし、原作の絵本を持ってくる人もいるというところを大事にしよう。提示しているときに、ずっと読んでいるのではなくて、子どもの顔半分ぐらい見ながら反応を確かめて、お話も半分というぐらいのことを目標として立てました。

次です。「分かりやすい発問」は、一言一句まで考えよう。「そのときの気持ちはなあに」と聞いて、意見が出なくて、そのとき「どう考えていたかな」と言い換える。それでも駄目で、要するにそのときの心の中って、「要するに」と言うのだったら、最初からそれを言いましょうということです。発問前に、どういう言葉を使って発問しようかということ、それから発問した後、すぐ手が挙がる子と、考えている子がいますので、時間をおいて、考える時間をたっぷりとってやりましょうということを話しています。

三つ目です。「待つ、聴く、受け止める」は、目で、表情で、全身ですけれども、マスクがあって、とてもやりにくいところがある。でも、目で頑張りましょうねと言っています。それから、沈黙を恐れないという、これ先生たちにとっては本当に怖いことなのですね。ピタッと止まってしまう。でも考えているから、恐れずに待とうという。40秒ぐらい待っていて、今までで一番待ったなという、そういう6年の担任がいました。大人が「待つ、聴く、受け止める」をしていけば、クラスの子どももきっとそういうふうになるから、そうしたら話しやすくなるよねということを共有しています。

道徳授業地区公開講座があったのですけれども、保護者の方にもこのように提示して、「これをやっています」ということを、お話をさせていただきました。

道徳の授業の話をしてきましたけれども、次に、道徳教育のことです。「豊かな心をもつ子」が重点目標になっていましたので、「地域の風の行き交う学校～わたしたちの令和小」というのをテーマとして掲げています。

学校として、コロナ禍で開校から3年、ちょうど重なって、いろんなことをやりたいのにほとんどできなかった。そういう中でどうしていくかということ先生たちと一緒に考え始め、今地域の方と一緒に考えていただいています。

「自他を大切にする子」というのを、先生たちが出してきましたので、ここで、「自己肯定だな」ということを出して、それを日々道徳教育の視点として持ってやっていましょうと。

そうは言っても、新校舎の引っ越しが終わったばかりでスタートしていますので、そっ

ちを大上段にするのではなくて、この三つをまずやっていこうということで始めました。

一つ目は、学級づくりの再認識ですけれど、学級開きのときに、教員が自分の好きな食べ物とかを紹介しているんですね。カルボナーラとか、2年目の教員ですけれど、一生懸命やっていました。画面の右側は、これも当たり前ですけれど、毎朝教室にメッセージを書いている教員がいます。

教室で迎えるのは当たり前です。玄関、それから正門ということで、地域には地域の方が立っていただいていますので、そちらにたくさん出ていく必要がないというところが、本当にありがたいと思います。

遠足が3年ぶりに実施できて、1回延期になったのですけれど、2回目の前の日に教室でてるてる坊主をつくってと、こんなふうに掲げることも大事だなと思っています。

二つ目、新校舎のフル活用です。

画面の左は初の入学式、何とかできてよかったなと思っています。右側は、新しい校舎だけではなくて、もとの校舎もということで、旧上高田小学校でも使っていた校舎の見学会を開いて、来ていただきました。学校を大切にすることですね。

画面の左は「だんだんアリーナ」って、階段教室なのですけれども、一学年の児童がちょうど入るので、学年をここに入れて、事前指導して、一足制なのでそのまま外に出て、五中つつじ通りからバスに乗って出かけることができるといったときに、「便利だね」と言いながら行っています。

右側は、新しい校庭での4年生のエイサーですね、運動会。2階のバルコニーから保護者の方に見てもらって、これも「たくさん見てもらえてよかったね」と言っています。

二つ目は、地域・保護者との連携・協働ですけれど、画面左側、1年生の入学式の次の日から、4地域の民生児童委員さんたちに下校の見守りをしていただきました。着任したばかりの私は大変感動を覚えています。地域の方に学校のほうにたくさん来ていただきたいということで、4地域の方、順に来ていただくために、さっきのだんだんアリーナで一緒に写真を撮って、それで校舎を回りました。子どもとの関わりもできてよかったなと思っています。この写真は上高田地域、松が丘地域、沼袋地域だったかなと思います。

その後、左側はシルバー人材センターの方にも来てもらっている紹介です。右は、学校では連れていけない鉄道クラブのロマンスカーミュージアムに行くというのを、おやじの会の主催に変えていただいて、実現することができました。子どもはものすごく喜んでいましたね。まなざしと言葉かけが大事、これが自己肯定感へつながると思っています。道徳授

業地区公開講座では、こんなテーマで私は話をしましたが、これを始めると1時間ぐらいかかりますので、次にいきます。

地域との連携ですが、大上段ではなくて、学校や地域のことを考えて、令和小学校楽しいな。そして、令和小学校のある地域っていいなと子どもに思ってもらいたいと考えています。なので、こんなことをしました。左は梅照院です。行っているのは、こだま学級の子たち。コロナ禍のときは、歩いているだけだったというので、新井薬師の館長に泣きついて、館長が説明してくださっているところです。

右は、さっきの見守りのお礼を1年生が書いている。左は、校長室への訪問、2年生の学校探検の練習です。これも3年ぶりだったと思います。右側は、軽井沢の实地踏査に行っている担任が、現地からGoogle Meetで教室とつながって、「みんなちゃんとやっているか。やっているよね」と言っていました。これも学校のことを考える学習です。「こだま」で1年生が遊ぶ会も、今年はできました。それから、6年生には全校朝会で、毎回何か話をしてもらっています、学校のために。相当緊張するそうです。

画面左ですが、地域の租税教室があって、地域の方がいて、担任がチームティーチングしていて、後ろにこだまの子が交流で来ていて、指導主事が後ろのドアからのぞいているという、相当いい写真だなと思っています。

右側は、保育園の子たちも来て、これは松が丘すきっぷ保育園ですけれど、うちに来る子2人が学校に来たら、1年生が読み聞かせをやっていて、そこに混ざったという、そういう写真です。なので、やっているうちに、感謝とか郷土愛、地域愛が、令和小学校の道德教育の重点と自然になっていく。そういう状況です。

ここから先、駆け足になりますが、より一層地域を活かすということで、こんなことも、近隣にはあるので、考えていきたいなと思っています。ぬまぼりにこだまの子たちが行って、6人で31匹釣ってきましたので、後で、いきいきした絵がありますから見てください。中野区清掃事務所は、PTAの旗振りの旗を置いていただいています。それを子どもに伝えていくことが、やっぱり感謝とか、そういうことになるのだらうと思います。

社会科を通した道德教育ですけれども、社会科のねらいの達成を優先した上で、画面の上は愛媛県から来ている愛南町のぎょしょく教育というものですけれども、ああいう内容が関係すると思うのですね。下はコロナ禍のときに社会科見学に行けなくて、青梅の間伐体験をやらせてもらいました。そこでも自然愛とか、勤労奉仕とかそういうものがあると思います。

でも上は、来てもらうのは、補助金がなくなれば難しい。下は、行くことは、時間の関係で難しい。なので、中野区の食材の納入業者の方が勉強して、愛南ぎょしょく中野マイスターということになって、向こうから来た魚で教えてもらって、今年7校実施予定です。それから青梅のほうは、5年の社会科の授業に、2時間でパッケージ化をして、現地からNPOの方とボランティアの方に来ていただいているという状況で、去年2校、今年は3校ぐらいやれるのではないかなと思っています。

中野サンプラザ見学バス、ありがとうございます。こういったことも、3年生の中野への愛着を育むことになるのではないかなと思います。

体験学習を生かした内面の育みということで、これ中野ゆかりの人を考えていて、まず民生児童委員さんから紹介していただいたバイオリニストの式町さんに、本校に来ていただきました。いじめの話なんかもしてもらいました。それから、弥生町に在住しているブラインドランナーの村上拓也選手、総合の学習にも来るのではないかなと思います。体験講座も行います。それから、南台に住んでいる成國大志選手は、この前世界選手権で優勝しましたかね。それから、本校の保護者にパラリンピックのボルダリング日本代表の大谷武彦選手がいますということで、こういう方に来ていただいて、中野のことも考えながらと思っています。

中野にまつわる道徳教材を紹介する時間はありませんので、またどこかだと思います。

令和の小の道徳の重点は、感謝・郷土愛です。道徳教育で自己肯定感、道徳授業では自己開示・自己受容、私たちのまなざしと言葉かけが、子どもたち自身が自己肯定感を育むことにつながるとしています。なので、青のベクトル。ありがとうございました。

入野教育長

松井校長先生、ありがとうございました。

それでは、続きまして、第五中学校の鈴木校長先生からお話をお伺いしたいと思います。鈴木校長先生、よろしく願いいたします。

鈴木校長

第五中学校の鈴木達彦と申します。本校に着任しまして3年目を迎えております。どうぞよろしくお願いいたします。私からは、第五中学校の道徳教育を通じた生徒の活動の様子全般についてお話をさせていただきます。

本校ですが、生徒数は現在292名、3・3・3の9学級の学級数です。昭和22年に創立し、75年目を迎えました。ご存じのとおり、ナンバースクールと言われる学校が、二中・

五中・七中のみになりましたので、区内でも最も歴史のある中学校として存在しています。

卒業生徒数は、昨年度の卒業生徒数をもって1万7,191人となっております。私もいろいろな方と、地域の方や保護者の方とお会いしますが、「五中の卒業生です」という方に出会う確率が非常に高いと感じております。そのため、保護者・地域の方は、学校に大変協力的で、ありがたく思っております。

電車の往来の音を除けば、大変静かな環境にあります。今新型コロナウイルス感染症対策の換気で、廊下の窓や教室を全て開けておりますので、さらにこのことについては、よく感じているところであります。

五中を一言で申しますと、穏やかな風が流れる中にも、生徒の自主性があふれる学校ということ、私は胸を張って言えると思います。

今年度の第五中学校の学校経営方針ですけれども、子どもたちの自己肯定感を高めること、主体性を育てること、心身の健康を維持すること、この3点を挙げまして、本校の教育目標であります「あたたかい心」「ゆたかな知性」「たくましい身体」の育成を目指しております。特に一つ目と二つ目の自己肯定感と主体性については、道徳教育と非常に合致している部分がありますので、そのことについて、お話をさせていただきます。

子どもたち一人ひとりが自分のよさや可能性を認識し、自己肯定感を高め、かけがえない自他の生命を尊重する態度を育てることを目標にここまでやってきました。これは、よく引用される調査の結果なのですが、年度当初の保護者会でも、保護者にお話をしています。高校生に聞いています。「自分はダメな人間だと思ふことがある」か。日本、アメリカ、中国、韓国を比較しているわけなのですが、日本の高校生7割以上が、「自分はダメな人間だと思ふことがある」と回答しています。同じ調査です。「私は人並みの能力がある」と回答している高校生ですが、アメリカ、中国、韓国と比べて、こちらは逆に低い傾向があります。

私は、自己肯定感、大人も子どもも、生きる力の根幹となるものだと考えます。自分のよさや自分の可能性に気づいて、自分らしく生きていこう。そういった生徒を育てたいと思っております。そうすることによって、自分を大切にするとともに、周囲の人も大切にできる人間になると思っております。

続いて、二つ目の主体性ですが、この写真は、毎朝各クラスの学級委員が、一般生徒登校の5分前に職員室の前に集合し、学年主任からミーティングを毎朝行っている場面の写真になります。リーダーシップを育てる。毎日のこと、毎朝のことですので、非常にリーダー

シップを育てることができております。かなり前から、これはやっている取組のようです。みずから考え判断し、主体性をもって、自主的に取り組むことのできる生徒を育成することを、これまでやってきております。

同じ朝の写真です。主体性ですけれども、みずから考え判断して行動する力。正しい判断・正しい行動ができる人、どんな困難にも負けない強さと優しさを兼ね備えた人、希望をもって夢の実現に向けて努力する人、そしていずれ幸せな人生を送ってほしいですし、周囲の人を幸せにできる人になってもらいたいと願っています。

それでは、道德教育の目標ですが、社会の一員としてよりよく生きる人、自分の生き方を主体的に考える人、あたたかい心をもって自立できる人、この3点を目標にやってきております。

重視する活動としては、他者との協働的な活動、体験的な活動、生徒の自主性を尊重して主体性を育む活動、この3点を重視して、全教育活動を行っております。各教科の授業においても、生徒一人ひとりの個性・能力に応じた指導の展開、相互に協力し合い、励まし合う学習態度の育成を目指しております。

これはつい先月、3年生が家庭科の授業の一環で、近隣の上高田四丁目にあります、まこと幼稚園さんで、保育実習を行った写真になります。まこと幼稚園の園長先生は、本校の学校評議員もやっただけなので、大変親しくさせていただいております。中学3年生と保育園児の交流、かなり年齢が離れている状況になるわけなのですが、生徒は、このように大変温かく子どもたちに接し、子育ての大変さや、または楽しさ等も実感して帰ってまいりました。

これは美術の授業なのですが、美術の教員が世界こども図画コンテストというものがあるって、そのコンテストに世界の子どもたちが出品した絵画について、生徒に授業で見せて、どう思うかということをやりました。ウクライナの子どもたちの作品を見せています。ロシアの侵攻前に世界の子どもたちが描いた作品を、戦争が始まってから見せて、どう思うかということです。このように、世界がこの子の夢を壊しているであるとか、この絵をこの子に返してあげたい。そして、この絵が私は大好きだということも伝えてあげたいであるとか、今ほかの国で何が起きているのか、他人事のことに言うてはならない等々の様々な感想を述べています。美術の領域を超えた、授業を超えた、そういうことをやっている授業です。

次に、総合的な学習の時間なのですが、探求的な見方・考え方を働かせ、自己の生き方を

考える。他者と強調して課題解決を図ろうとする態度の育成を目指してやってきております。これは、2年生の職場体験の写真になります。2年間やりませんでした。3年ぶりに今回多くの企業さんにご協力いただいて、職場体験をやらせていただきました。特に、保育園・幼稚園に行った生徒なのですが、3日間行ってきているのですが、最後の日には、子どもたちがみんな泣いてしまって、お兄ちゃん・お姉ちゃんたち、もう明日から来ないのなんていって、泣いてしまったなんていうことを、園長先生からお聞きしました。

次に、特別活動（学級活動）ですけれども、係活動など、協力する生活を通して、他を思いやる心と社会に参画する態度を培うことを目標にやってきております。

続いて、生徒会活動です。異年齢の集団で協力し合い、自主的に組織を運営することで主体的な態度を養うことを目標にやってきております。生徒総会や、いわゆる生徒会行事では、新型コロナウイルス感染症がまん延してから、体育館等で集まることは一度もやっておりません。このような校内のホールから、リモートで教室に配信という形を3年間やってきております。

次に、学校行事ですが、体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深めようとする態度を育てる。運動会です。それから修学旅行、これも無事に健康面等、特に問題なく、行ってくることができました。これは先週の土曜日に、なかのZEROホールをお借りして行った合唱コンクールになります。

次に、道徳の授業の工夫点、3点をお話しします。

学年の教員によるローテーション授業を実施しています。学年の教員6人による交代で、一つのクラスを順番に授業を行っています。この効果として、各教員の個性や指導方法の工夫に応じて授業を行うことができますので、子どもたちにとって、毎回、毎時間が大変楽しみな授業になっています。

これはとある道徳の授業の一場面なのですが、この先生は、子どもがじっくり内容に向き合うスタイルでの授業をやっています。お隣のクラスをのぞいてみると、この先生はフリーにディスカッションする授業を目標としてやっている。このように、教員の個性に応じた授業ができているわけなのです。

次に、考え、議論する場面の設定です。この写真のように、教室内を自由に歩いて、意見交換する場面を取り入れています。

次に、意見や考えを共有する。アプリを活用して、子どものiPadから電子黒板に、自分の考えを飛ばしているものになります。Jamboardというソフトやワードクラウド



ドというソフトを使って、子どもたちが自分の意見を飛ばしている写真になります。こうすることによって、なかなか普段手を挙げることができない。意見を言うことができない子どもも、自分の考えをこのように発信できる工夫をしています。

道徳の授業の評価ですけれども、この子が今書いているとおり、毎時間の振り返りノートがあります。これを毎回授業者が確認をし、そして担任も確認をする。二者が確認をして、評価を行っております。

次に、部活動のことについてなのですが、ボランティア部が地域のほうに出向いています。この写真は昨年度の12月なのですが、高齢者施設に出向いて、クリスマスカードを作成したものをお渡ししているところです。例年ですと、おじいさん・おばあさんに直接手渡しをできていたということなのですが、昨年度はやはり会うのはということで、館長さんにお渡ししている写真になります。

それから、これは先月同じボランティア部ですが、駅前のマルイデパートでのフードロスの取組に手伝いを依頼され、2日間、土曜日・日曜日、このようにお客さんへの案内や紹介などをしてきている写真になります。

吹奏楽部なのですが、ここからは少し紹介になってしまうのですが、大変いい成果を残しておりまして、夏に行われた都の吹奏楽コンクールで金賞を受賞しました。五中の吹奏楽部が金賞を受賞したのは、25年ぶりとか17年ぶりとか言われていて、どちらが本当かはわからないのですが、いずれにしても、それだけ長い期間金賞、とれなかった賞をとれたということで、大変うれしく思っております。12月に行われるライオンズクラブさんの、中野駅前でありますふれあいコンサートにも参加いたしますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

続いて、この秋に行われた大会でいい結果を残している部があります。男子のソフトテニス部なのですが、区大会で優勝し、都大会に出場します。同じく女子のソフトテニス部も優勝し、都大会に出場いたします。それからバレーボール部なのですが、これも区大会で優勝し、ブロック大会では準優勝、そして都大会にこれから出場する結果を残しています。

次に、これは学校新聞というものをつくっております。放送委員会というのがありますが、放送委員会の生徒が全て自分たちで取材や写真を撮って、校内のみ発行しております。これもお見せすると、例えばこれは運動会の日速報として、子どもたちが下校する前までにつくって、帰るときに配って、大変好評でした。裏面は先生たちの当日のファッションなどで、あまり大した内容ではないのですが、こんなのをつくったりとか、例えばこれも

このような形で、表面が行事の内容で、裏は大体部活のコーナーになっていて、あと給食の栄養士さんのレシピの紹介や、これは一番新しいですが、このような委員会の様子であるとか、各委員長からの一言などといって、大変子どもたちの様子が鮮やかに描かれていて、これは子どもたちの自己肯定感をとても高めている。やっぱりうれしいという子が多くて、高めている内容であると思います。非常によくできている内容だと思っております。校内のみの発行にしていますので、ホームページ等には載せておりません。

では、戻ります。最後になるのですが、これは電車からよく見える第五中学校の校舎なのですけれども、「中野五中この一瞬を大切に」と書いてある大きなメッセージボードなのですが、これは、今から11年前の2011年の3月、3.11があった3月に、当時の中学校3年生の卒業生たちが、卒業制作で残してくれたものなのです。後輩たちに残したいメッセージということで、みんなでアンケートをとり、「この一瞬を大切にしよう」ということを、この言葉が一番票が多くて、このメッセージをつくったということなのですが、この言葉をつくって、卒業を控えていたときに3.11があり、金曜日に地震があって、聞いたところによると、翌週の月曜日から中野区は給食がなくて、午前授業だったそうなのです。それで、3月19日の卒業式まで、今まで予定していた行事や取組などが一切なくなってしまい、午前中だけ学校に行って帰って、そして卒業式もできるのだろうか、この当時の3年生たちは大変不安だったそうなのですが、そんな中でこのメッセージが、後輩に向けてつくっただけけれども、今いる私たち、自分たちにも向けて、卒業までの短い期間を大切に生活していこうねと、自分たちへのメッセージにもなったということ、当時の先生からお聞きしました。このメッセージボードは、それ以来、五中の後輩たちに、「この一瞬、毎日大切にしていこうね」ということを常に訴えかけて、見守ってくれるメッセージボードになります。私は本当にこのメッセージがすごく好きで、電車、新宿方面から乗ってくるものから、毎朝必ず見て、新井薬師の前の駅で降りている毎日を送っています。

ご清聴ありがとうございました。

入野教育長

鈴木校長先生、ありがとうございました。

事務局、小・中学校と続けて、説明をしていただきました。ただいまの説明や協議テーマに関しまして、教育委員の皆様から、質問や感想を含めて、ご意見を伺いたいと思います。ご発言ございますでしょうか。

田中委員

松井先生、鈴木先生、両校の実践の様子を大変楽しく紹介してくださって、本当にありがとうございました。

実は、今日この教育委員会に来るときに、今日のお話はどっちかというところ、道徳の授業でどんなことをやっていらっしゃるのか。そんなことを聞けるのかなと思って伺ったのですが、最初のほうのスライドにありましたけれども、改めて学校生活そのものが、道徳の教科の教育だなと感じました。

今、いろいろなお話を伺っていて、先生方も様々な取組をされていて、いろいろな困難に向かうという意味で、先生方ご自身も、子どもたちに道徳を指導する中で、多分いろいろな感想というか、ご自身が成長したようなこともあったのかなと感じるのですが、その辺、何かご感想があったら教えていただければと思います。

松井校長

ありがとうございます。道徳の授業を自分が担任時代にされていて、担任がこういう発問をしたら、こういうことを考えるかな。あの子はこういうことを言うかなということを楽しみにしながら授業はしていましたが、大人が考えることよりも、もっとすばらしいことを子どもたちは考えることが多々ありました。

なので、さっきの「かみしもを脱いで」ということが、すごく大事だなと思って、そのときに、「いや、先生はそんなこと思いもよらなかった」ということを返していけば、その子の自己肯定であるとか自己受容がされるだろうな。なので、ちょっと話がずれてしまいますけれど、さっきの道徳の授業の嫌なことは、書きたくないのに書かされる。言いたくないのに言わされる。それから、まだ考えているのに先にいってしまうということ、卒業した二十何歳の子どもたちが、一様に私に優しく言ってくれるときがありました。

好きなほうは、じゃあとと言うと、お話が好き、教材ですね。それから、人の考えを聞いているのが好き。ここまでは結構早く来ます。それから、自分の考えを言えるようになったから好き。その先、ずっと先に、自分自身のことを考えるのが好きというのが、6年間道徳の授業がしっかりできていた学年の子が、卒業前にやっと言ってくれたみたいなことがあって、地味なことを淡々と授業して行って、最終的に自分で自分を育てるのは子どもだななんていうことも学びました。

鈴木校長

やっぱり自分の、子どもたちの考えを尊重してあげること、認めてあげること、そして褒めてあげること、そういったことを教職員が共通理解のもと進めていくことが、自己肯定

感につながりますが、道徳の授業でも子どもを育てていくことにつながるかなと思います。

伊藤委員

すばらしい発表をありがとうございます。日頃のご指導、本当に心から感謝申し上げます。

初めに感想になりますが、小学校のほうでは、感謝と郷土愛ということで、感謝することが、自分が感謝できるような、いろんなことをしてもらっているという、そうやって大事にされているところから、子どもの頑張りの基礎になっていくと思いますし、あと郷土愛というのも自分のルーツということで、本当に小学生らしく、これから伸びていく自分のルーツみたいな根っこ、土台というようなところを、6年間かけてトータルに、日々の教育活動の中で作り上げてくださっていることに感銘を受けましたし、本当にありがたいなと思いました。

その中で、お聞きできればと思うのは、本当に地域の方のバックアップ等々があつてのことだと思うのですが、もし地域や教育委員会にもっとこんなサポートがあつたら、こういった取組が、学校、令和小学校だけでなく、いろんなところで広まるなと思ってらっしゃることがもしあれば、伺えたらと思いました。

それから中学校のほうは、今度は感謝することだけでなく、感謝されることというところで、やはり感謝されることで、自己肯定感が上がっていく。ですので、保育園に行っている中学生のなんと頼もしいことかと思ったのですけれど、こんなことができるのだという体験、それは本当に中学生の自己の発達に、ものすごく大きな支えになっていくだろうなということを思いました。これからの自分を考える時期に差しかかる中で、自分が役立てる。何か可能性を持った存在なのだということが実感できるような様々な取組を、本当にありがたく思っております。

もしお聞きできたらと思いましたのは、中学校の場合には、中学生は本当に忙しいと思うのですよね。中学校のカリキュラムも本当に忙しいと思うのですが、部活動もごさいますし、その中で時間の捻出ですとか、このあたりこう工夫してきたとか、ここに難しさがあるとか、何かございましたら、参考までにお伺いできたらと思いました。

以上です。

松井校長

まず小学校のほうからですが、道徳の授業のことについては、いいものを各区内各小学校に紹介をしているというのは、小学校の教育研究会の道徳教育部の役割でもあるので、

それをしています。

ただ、そこに、教育委員会事務局の道徳担当の指導主事は、大変よく来てくれます。いろんなところに顔を出して、情報を持って、それを持って、また区内の小学校を回っていらっしやいますので、私は非常にありがたく思っています。

上鷲宮小学校の研究発表に際しても、道徳部では当然話題になって、こういうことがいいのではないか、ああいうことがいいのではないか。「でも決めるのは、上鷲小だよ」ということですが、バックアップ体制は整っていますので、よりよいものを、ぜひ様々なところに紹介するのをともにやっていただければ、ありがたいなとは思っています。

それから、これはちょっと、考え、議論する道徳というのですけれど、小学校段階で議論といったときに、小学校1年生で意見を言った後に、「違うと思います」みたいな考え違いとか、あと「それはおかしい」みたいになって、それが議論だという授業を拝見したことがあるのですが、そうすると、自己受容も自己開示も自己肯定もないので、そうではなくて、小学校段階では、考え、話し合う道徳というつもりでいて、なおかつ授業としては、「考え」が「考えたい」とか、「話し合いたい」と思うような授業を目指していこうとしていますので、それを応援していただいていると思いますので、道徳の授業については継続していただければと思います。

地域との連携については、令和小学校に着任してまだ間もないというのと、あと新型コロナウイルス感染症の影響で3年間ほとんど動きができなかったというのがありますが、幸い地域の方がたくさん学校に来てくださって、情報をいただいていますので、それをどう生かしてやっていくかが、学校の教職員の腕の見せどころだと思うのです。なので、あまり恐れないで、「こういうのをお願いします、お願いします」と言うばかりで、本当にいつもすみません。

それで、効果があったものについて、中野区内の小学校に広めたいと思って、さっきの愛媛県とか青梅の学習とか、青梅なんか森林環境譲与税なんか使えたらいいのかななんて思ったりもしますし、そこら辺を「こういうのがあるよ」と紹介しつつ、でもやる気になってやらないと、迷惑かけてしまいますから、「お願いしますね」と、指導主事の先生方に言っていただけるとありがたいなと思いますし、いろんな予算をつけていただいて実行したことが、効果的になるようにして今やっていますので、中野区検定3年版みたいなので、つくってしまいましたので、ぜひいろんなものを継続できるとありがたいと思っています。

それから、地域との連携は、五中校区としても考えないといけないのかなと思って、共有

させていただいて、小学校でこうやったけれど、中学校ではこういうことが考えられると  
いうことができると、五中校区として一つ進むのかなとは思っています。

以上です。

鈴木校長

時間の捻出ということで、お話しいただきましたけれども、本当に私も今、考えますけれども、やっぱり忙しいと思います。中学生も教員も忙しいだろうと思うのですが、何かを精選していくことしかないのかなと思います。いろんなことを、たとえ小さなことでも、ちりも積もればで、精選していくことしかないかなと思います。

村杉委員

先生方、すばらしい取組の話を伺いまして、本当に感銘を受けました。ありがとうございました。それらの取組や授業で、間違いなく効果が出ていることかと思いますが、道徳教育というのは、見えない部分ですので、効果が出ているとか、効果が出ているかとかの評価の仕方と言いますか、実感でも構いませんし、何かありましたら、時間がかかることなのかもしれないかもしれませんが教えていただければと思います。

松井校長

プレゼンの中に、学級づくり重視の再認識というのがあったと思うのですが、道徳の授業、道徳教育と学級づくりは、もう切っても切れない関係ですので、やっぱりそこを大事にして普段の教育活動を進め、道徳の授業をしっかりやっていけば、学級づくりには反映されていきますので、その手応えを教職員がどう味わっているかというところは、私のほうに週案に書かれてきますので、非常に大切にしています。

併せて、これまで教室で道徳の授業が楽しいとかおもしろいとかいうのは、話題にもならなかったそうで、体育専門でやっている教員が夏休みの前に聞いたら、「先生、道徳」と言われたということは、その人にとっても、私にとってもうれしいことで、夏にいろんな聞き取りを先生たちからしますけれど、そのときに「どう？」と聞いたら、若手の教員にも「楽しくなってきました」と言われると、とてもありがたく、うれしいなと思います。

なので、あとはクラスの状況を考えながら、見えにくいその子の心の中を、その子の抱えているバックボーンまで考えながら見ようとする姿勢が大事ではないかなと思っています。

鈴木校長

週1回の道徳の授業ですけれども、いつ見に行っても、どの学年、どのクラスを見に行っても、子どもたちの雰囲気は明るいといいますか、固くないといいますか、笑顔が非常に

あったりとか、そういった授業に変わってきているように思います。以前の、昔と言いますか、随分子どもたちも先生もかたいイメージだったのですが、今は教師も子どもたちもとも肩の力を抜いた、そういった授業に変わってきているように思いますし、今の個々の授業も、いつ見ても明るい雰囲気での授業ができていることが成果かなと思っています。

岡本委員

ありがとうございました。まず最初に、感想を述べさせていただきます。もしかしたら、多くの方は、かつての道德教育のことを思い浮かべていることもあったのかなと思っています。大人がこれはこうだ。徳目を子どもに教え込むことが道德教育で、それはややもすると、危険な面もあるのではないかという心配をする方もいるのではないかと思います。また実際にそうしたいと思っている方もいると思うのですけれども、今日のお話、伺いまして、今必要な道德教育って、そういう即効性を求めるものではないし、思いやりの行動をさせる時間ではないというお話もありました。自己肯定感や自己開示・自己受容を育む道德教育。これがより今からの多様性の時代に生きる子どもたちに必要なものだということは、よくわかりました。そして、これは大人にとっても必要な学びではないかなとも思いました。

特に、松井校長先生から、かみしもを脱いでというお話があって、これ先生と子どもが対等に授業をつくっていく。そういう関係性というのは、子どもが先生への信頼関係にもつながると思いますし、子ども同士の関係性の構築にもつながっていくのではないかなと感じたところです。

他者とどう折り合って生きていくのか。どうしたって折り合いが悪い人もいますから、そういった中で何とかやっていくのが生きる力ではないかなと個人的には思っていますので、きれいな話もあっていいのですけれど、現実的にどう生きていくのかというのを学べる時間になっているというのが、すごく希望を持てる話だなと思いました。

松井先生、鈴木先生に一つずつお伺いしたいのですけれども、松井先生には、指導室長のお話の中で、道德科の目標として、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、よりよく生きるというのが、個人的にはどういうことなのかなというのが、腑にすんと落ちてこないことがありまして、もしもお考えがあったら、教えていただければと思います。

鈴木先生には、プレゼンいただいた中で、学年主任の先生が学級委員の方にミーティングをされている。その場面がありました。それが生徒さんたちの自主性・主体性の育成につながっていくというお話があったのですけれども、そのミーティングはどのようにして主

体性の育成につながっていくのかということをお話していただければと思います。

以上です。

松井校長

難しい質問ありがとうございます。ただ、よりよく生きる基盤となる道徳性を養うというのは、道徳科の授業と道徳教育と共通の目標に、今回の改訂でなっています。なので、総合的にこのよりよく生きるという部分を考えていくことが大事だと思うのですが、まず一つは、道徳の授業の中でよりよくとなったら、その子にとってのよりよくが、1時間の中であればいいと思っています。なので、過去にとどまっている子も、そのことを思い出ただけでよりよくというのを、その授業の前と後では、ほんのちょっとでも違うと考えるという。それぞれが飛び越えられるハードルは違うので、その子にとってのよりよくが1時間1時間の中であればいいと思っています。それが、全ての教育活動となったときに、よりよくが、だから、ほかよりよくではなく、周りよりよくではなくて、自分自身のよりよくという部分が大事なのではないのかなと思っていますが、思い続けて実践するのはすごく難しいことですが、でもよりよくはそう捉えています。

鈴木校長

学級委員の毎朝のミーティングのことなのですが、まず各学級の課題について朝共有をして、自分のクラスだけではなくて、他クラスの課題についても、どうしたらよりよくできるのか。どうしたら解決できるのか等々について、自分たちで自分の学年の向上に向けて考えていくという場面が、部分が主体性の向上につながっているのではないかと考えます。

岡本委員

先生方どうもありがとうございました。

松井先生の自分にとってのよりよくというお話で、もしかすると、大人がこの子にとってよりよいものはこうだみたいな、さっきの徳目の教え込みにつながる話かもしれないのですが、そう受け取っている大人も、もしかしたらいるかもしれないなと思っていたところもありますので、ただ人と生きるためには、周りにとってのよりよいも必要かもしれないですね。自分にとってのよりよいと周りにとってのよりよいを、折り合いをつけていくことは、多様性の時代に生きる力なのかなと思っていますので、松井先生のお話はすごくよくわかりました。

鈴木先生もありがとうございます。学級委員さんがすごく活躍される場面があるのはい



いことだなと思いました。他方で、学級委員さん以外の方々、あまり目立たない子たちも活躍できる場面が、もっと多分ほかにもたくさんいろんな活動されていて、そういうところでも、どんどんそれぞれのリーダーシップが育まれれば、育んでいらっしゃるのだなと思うのですけれども、そういう場面があればいいなと思いました。

以上です。

伊藤委員

よりよくというのは、私、心理学が専門なので、よく生きるに「より」がついているのだと思っていたのですね。よく生きるは、ウェルビーイング。ウェルビーイングって、すごく識者もたくさん定義を出していますけれども、難しいですけれども、より健康に生きるとか、より賢く生きるとか、よく生きるに「より」がついていると思っていたのですけれども、やっぱり学校の先生方は、よりよくという、プロGRESSという形で捉えていらっしゃる方もたくさんおられるのだなと思って、それも含まれているのかもしれないのですが、なので、前よりよくななくても、いずれ生涯の中で、よく生きるということが、いつか種をまいていただいて、できればいいということではないかなと思っていたので、ちょっとびっくりしてしまったので発言しました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。ほかにございますでしょうか。

本当に申し訳ありません。時間があまりなくなってしまうと、ここで協議を終了したいというふうに思います。またご意見があれば、後でお聞きしたいなというふうに思います。

本当に見えにくい心の教育をいつも第一義において、中野区教育委員会は取り組んできております。

それから、道徳の授業は、唯一ではないかもしれませんが、全教員が関わる授業でございますので、みんなで取り組むということも、みんなで少しずつ、教員側からしても進めていくものの大きな一つかなというふうに思っております。たしか平成10年ぐらいから、道徳の地区公開講座が始まったかというふうに思いますけれども、それも地域の方々や保護者の方々のご協力を得て、大分いろいろな形に変わってきてまして、今日のお話の中で、実のあるものに、この道徳を公開していくことがつながっているのだなという実感を持ちました。これからもみんなで取り組む道徳教育は、しっかりと大事にしていきたいなと思って

おります。

今日はお時間をいただきまして、ありがとうございました。

それでは、本協議を終了いたします。

ここで会議を一旦休憩いたしまして、短い時間でございますが、傍聴者の方々からもご意見などをお伺いしたいと思います。

それでは、会議を休憩いたします。

午前 11 時 13 分休憩

午前 11 時 27 分再開

入野教育長

それでは、会議を再開いたします。

本日は、今お話ししましたように、大変有意義な機会を持ってまして、ありがとうございました。

最後に、事務局から、次回の開催について報告をお願いいたします。

子ども・教育政策課長

次回の教育委員会でございますけれども、11月4日金曜日午前10時から、区役所5階の教育委員会室で開催いたします。

以上でございます。

入野教育長

様々ご協力ありがとうございました。

それでは、これをもちまして、教育委員会第32回定例会を閉じます。

ありがとうございました。

午前 11 時 28 分閉会